白石市文化財調査報告書第39集

中ノ在家遺跡

平成２３年３月

白石市建設部
白石市教育委員会
（宮城県）

例　言

1．本書は白石市教育委員会が実施した白石市建設部の市道耕野２号線道路改良事業に伴う中ノ在家遺跡発掘調査報告書である。発掘調査、報告書刊行に係る経費は白石市建設部が負担した。
2．土層の色調表記については『新版標準土色帖』（小山・竹原、1996）を用いた。第１図は国土地理院２万５千分の１白石南部を複製して使用した。その他は白石市建設部の工事測量図を用いた。
3．検出遺構の略号は以下の通りである。
　ＳＤ：溝状遺構　　ＳＫ：土坑
4．本事業の調査は白石市教育委員会生涯学習課の日下和寿が担当した。報告書本文執筆は佐藤敏幸（東松島市教育委員会）が第５章第１節、その他を日下が担当した。資料整理は岡部とき子があたった。
5．発掘調査の実施、報告書作成にあたっては宮城県教育庁文化財保護課をはじめとする次の機関・個人から御協力、御指導をいただいた（敬称略）。
　土師器、須恵器　石本　弘（白石市文化財保護委員）
　　菅原祥夫（福島県文化財センター）
　　佐藤敏幸（東松島市教育委員会）
　　村田晃一、柳澤和明（東北歴史博物館）
　陶磁器　　佐藤　洋（仙台市教育委員会）
　写真撮影　　君島武史（北上市立埋蔵文化財センター）
　発掘調査　　亀岡建設株式会社、越河公民館
6．本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会生涯学習課が保管しており、依頼に応じて公開、貸出を行っている。

調査要項

遺跡名称　中ノ在家遺跡（宮城県遺跡登録番号 02417）
遺跡所在地　宮城県白石市越河平字中在家
調査理由　市道耕野２号線改良工事
調査主体　白石市教育委員会、白石市建設部
調査担当　白石市教育委員会生涯学習課　日下和寿
調査期間　平成 22 年６月１日～ 10 月１日（確認調査及び事前調査等）
調査面積　2,551.7 ㎡（発掘面積 344 ㎡）

第１章　調査に至る経過

白石市南部に位置する越河地区は、南は福島県国見町と県境を接し、東は丸森町耕野地区と接している。白石市建設部では、既存市道拡幅工事を計画的に実施してきたが、今回、越河平地区と耕野地区を結ぶ道路のうち耕野２号線が拡幅対象となり、平成 21 年度から工事が着手された。工事区間は 520 ｍであった。

第２章　遺跡の概要

第１節　遺跡の位置と地理的環境

中ノ在家が位置する越河地区は白石市中心部と比較すると標高が高く、地区の中央低地でも 140m ほどである。小規模な盆地状の地形を呈しており、最大で東西 1.1km、南北 3.3km ほどの規模である。国道４号が中央西側、東北自動車道が盆地東側を通過している。その両側に水田、畑地等が広がり、その背後に傾斜のある丘陵が存在する地形となっている。住宅は水田、畑地と丘陵が接する箇所に多く見られる。盆地の東端を斎川が北流している。発掘調査箇所はＪＲ東北本線越河駅から南東へ約 0.86km、白石市役所から南へ 7.8km の丘陵上にある。丘陵は東から西へ傾斜し、丘陵の南斜面に遺跡が立地している。

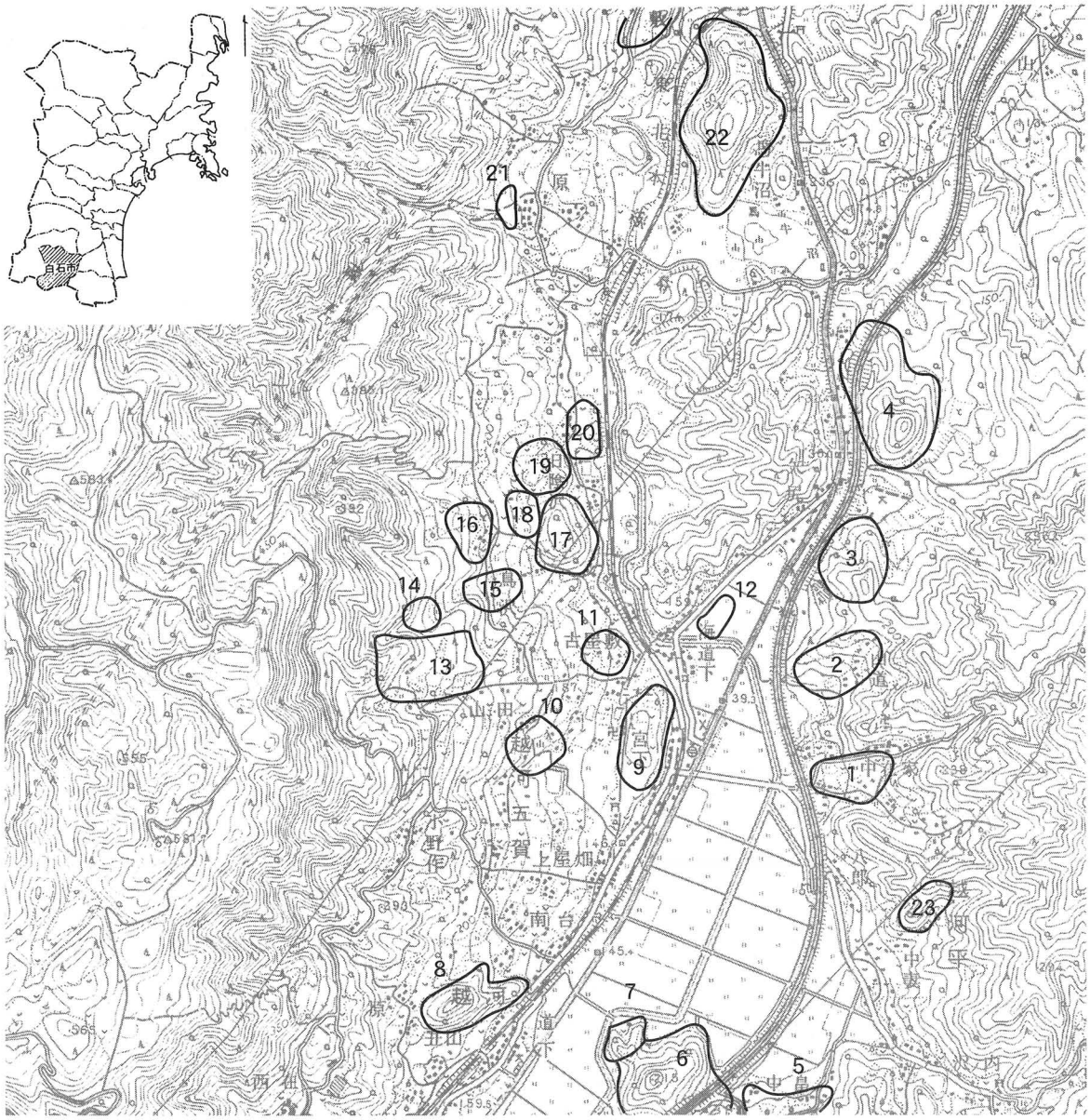
中ノ在家遺跡においては平成 12 年 12 月、越河平字入 63-3 ほかにおいて住宅建設に伴う確認調査、農業集落排水管埋設工事に伴う工事立会が平成 17 年 11 月 11 日に実施されているが、共に遺構、遺物とも発見されていない。平成 18 年 11 月には文化財パトロール事業で、中ノ在家遺跡が調査対象となっている。

第２節　周辺の遺跡

中ノ在家遺跡が所在する越河地区の埋蔵文化財の最大の特徴は城館跡の集中にある。周辺には、太斎館跡、愛宕館跡、丑形山館跡、鳥沢小屋館跡、明堂館跡がある。縄文時代、古代に属する遺跡も多いが、発掘調査が実施された個所は少なく不明な点が多い（第１図）。農業集落排水事業完了後は、埋蔵文化財発掘届出・通知も少ない。

3.5km 北には馬牛館跡がある（中橋 1987）。保存状態は概ね良好で、調査が待たれる館跡である。南側に接する馬牛沼は何時から存在するかは、未だ確証がないが、沼底には埋没林があり、年代測定を行うことによって、沼の形成年代の手懸かりを得られる可能性がある（高橋 1978）。

第１図の範囲外であるが、県境近くに越河防塁がある。阿津賀志山防塁のうち、最も北に所在する第４の防塁とされている（菊池 1994）。この防塁は、現在、越河字二段場に所在する虚空蔵館跡（登録番号 02158）に含まれている。



番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	出土品
1	02417	中ノ在家遺跡	越河平字中ノ在家	散布地	縄文・古代	剥片. 土師器. 須恵器
2	02369	山道遺跡	越河平字山道	散布地	古代	土師器. 須恵器
3	02162	山道館跡	越河字館山	城館	中世	
4	02218	明堂館跡	越河平字明堂	城館	中世	
5	02370	愛宕山遺跡	越河字愛宕山	散布地	古代	土師器. 須恵器
5	02026	打越前遺跡	越河平字打越前	散布地	奈良・平安	土師器(表杉ノ入). 須恵器
6	02159	愛宕館跡	越河字愛宕山	城館	中世	
7	02180	笹森小屋館跡	越河平字愛宕山	城館	中世	
8	02225	丑形山館跡	越河平字丑形山	城館	中世	
9	02021	馬場台遺跡	越河五賀字馬場台・宮	散布地	旧石器・縄文・古代	掻器. 剥片. 石鏃. 石匙. 土師器. 須恵器
10	02022	峠沢遺跡	越河五賀字峠沢	散布地	縄文後・古代	縄文土器. 土師器
11	02368	古屋敷遺跡	越河五賀字古屋敷	散布地	縄文前・古代	縄文土器(繊維土器). 土師器. 剥片
12	02367	矢尻遺跡	越河平字矢尻	散布地	古代	土師器. 須恵器
13	02164	鳥沢小屋館跡	越河字鳥沢	城館	中世	
14	02019	西A遺跡(五賀西遺跡)	越河字五賀西	散布地	縄文前	縄文土器(繊維土器)
14	02228	覚永寺跡	越河五賀字西	寺院	近世	
15	02017	熊谷前遺跡	越河五賀字熊谷前	散布地	縄文後・弥生・古代	縄文土器(宝ケ峯). 弥生土器(桝形囲). 土師器. 須恵器
16	02219	西B遺跡	越河五賀字西	散布地	縄文後・平安	縄文土器(金剛寺). 土師器
17	02167	八幡台館跡	越河字八幡台	城館	中世	
18	02016	鶴巻田遺跡	越河五賀字鶴巻田	散布地	縄文中	縄文土器(大木9)
19	02226	微妙館跡	越河五賀字見明	城館	中世	
20	02168	乙森小屋館跡	越河五賀字乙森	城館	中世	
21	02169	原遺跡	越河字原	散布地	縄文・平安	土師器. 須恵器. 剥片
22	02170	馬牛館跡	斎川字館山	城館	中世	
23	02161	太斎館跡	越河字万崎屋敷上	城館	中世	

第1図　遺跡地図

第３章　調査の経過

第１節　調査の経過

今回の工事は、現道の両脇を拡幅するものである　事業区の西端は既に盛土工事が行われており、調査は実施できなかった。その他の箇所の確認調査は６月以降、工事に先立ち実施し、一部で遺構が確認されたことから、事前調査を行った。工事立会は工事に併せ、随時実施した。

第２節　調査の方法

拡幅箇所で重機で掘削が可能な箇所は重機を使用しながら、確認調査を実施した。また、現道下もアスファルトを剥がした後で、確認調査を実施したが、北半には既存水道管、南半には農業集落排水管が埋設されており、本来の土層が残っている箇所は少なく、あるいは過去の削平が著しかったため、遺構、遺物の出土はなかった。法面掘削などの箇所は面積が狭いことから工事立会を行った。

第４章　発見された遺構と遺物

確認調査トレンチは第２図に示した７箇所に設定した。遺構が確認されたのはＴ３のみで、Ｔ４、Ｔ２で遺物が若干発見されたのみであった。Ｔ３附近の畑地では土師器等が表採される。

調査の結果、円形の溝状遺構１基、ピット１基、土師器、須恵器、近世陶磁器、和釘が発見された。

溝状遺構は幅 0.4 ～ 0.6m で、５ｍ分ほど発掘を行った（第４、５図）。推定直径 2.7m になると見込まれ、事業区外の南側に拡がる。東側は掘り込みが浅く、幅が広く、深さ 0.2m 程、西側は底面ほど、幅が狭まり 0.4m 程であった。遺構上面では、焼成を受けた礫がややまとまって出土した。遺構埋土、基本層位から土師器、須恵器が出土した（第６図）。溝状遺構の上面で発見されたピットは溝状遺構よりも新しいものである。直径約 0.3m、深さ 0.2m で、堆積土に珪化木が含まれていた。出土した土師器、須恵器は溝状遺構からの出土が多かった。破片で図示しなかったものには、溝状遺構６層の土師器甕がある。図示した土師器、須恵器は、その特徴から、９世紀代のものと考えられる。

土師器、須恵器は実測できる個体は少なく、小破片が多かった。少ない資料の中に会津大戸窯産長頸瓶が２点含まれていた（第６図１、２）。白石市内では近年、大戸産須恵器の確認例が増加しているが、市南部では初めての発見である。次章において今回確認された会津大戸産須恵器を中心とした搬入された須恵器について、市内各地の資料も検討に加え考察する。

陶磁器は古いもので 17 世紀代、新しいものは近現代のものが含まれていた。

第５章　考察

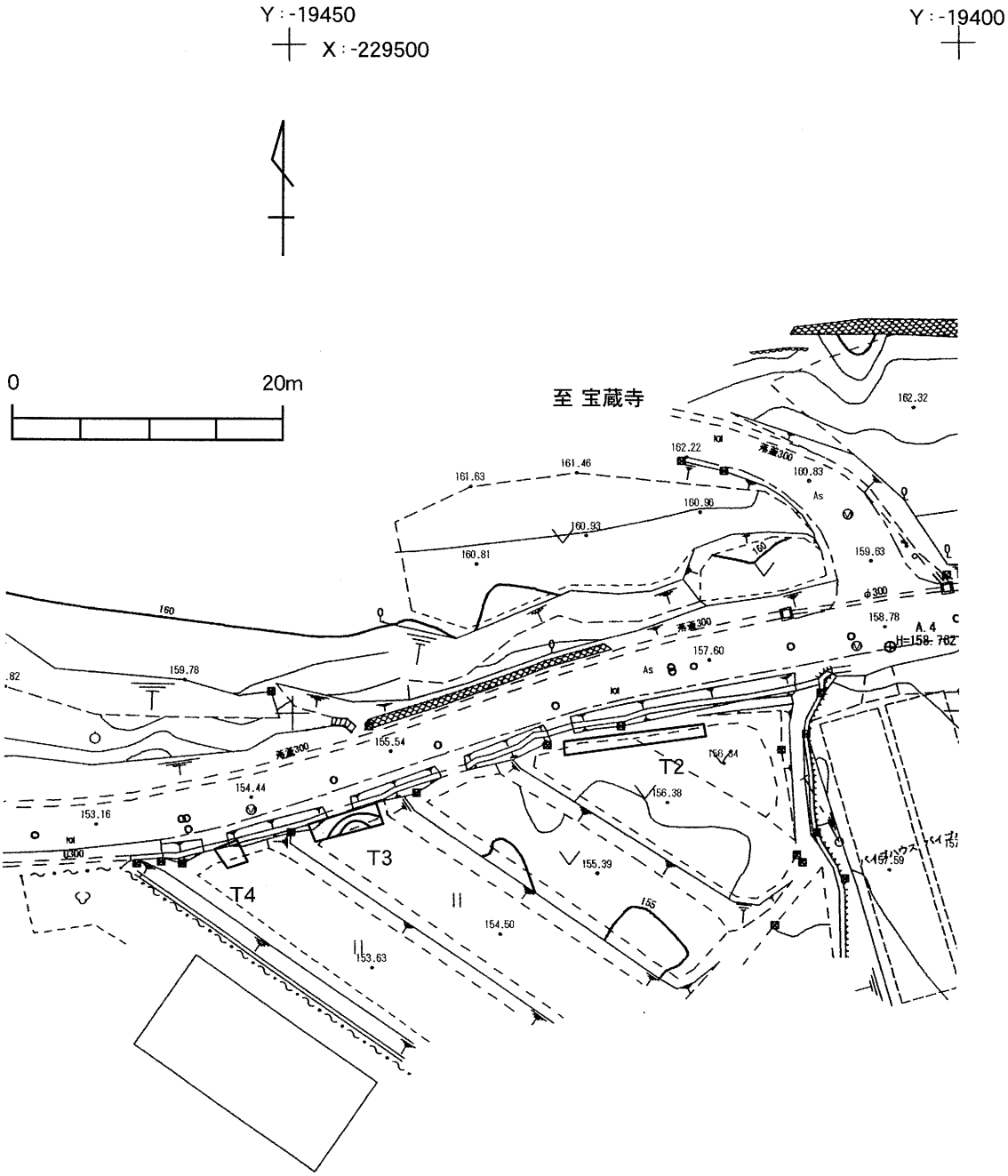
ここでは、今回出土した大戸窯産須恵器を中心に考察する。既に報告書が刊行されている発掘調査資料と、寄贈資料の見直しを行ったところ、第７図に示したように、市内各地において搬入須恵器が確認されている。次節で詳しく述べることにする。

第１節　白石市内出土の搬入須恵器について

第７図１～３は丁寧なつくりで胎土は白っぽく混入物はほとんど認められない。また、重量も軽い。いずれも器形、胎土、色調から静岡県湖西窯跡群で生産された須恵器と考えられる。第７図１は横瓶の体部片と考えられる。ロクロ成形で、外面に回転ケズリ、内面にロクロナデがみとめられる。外面

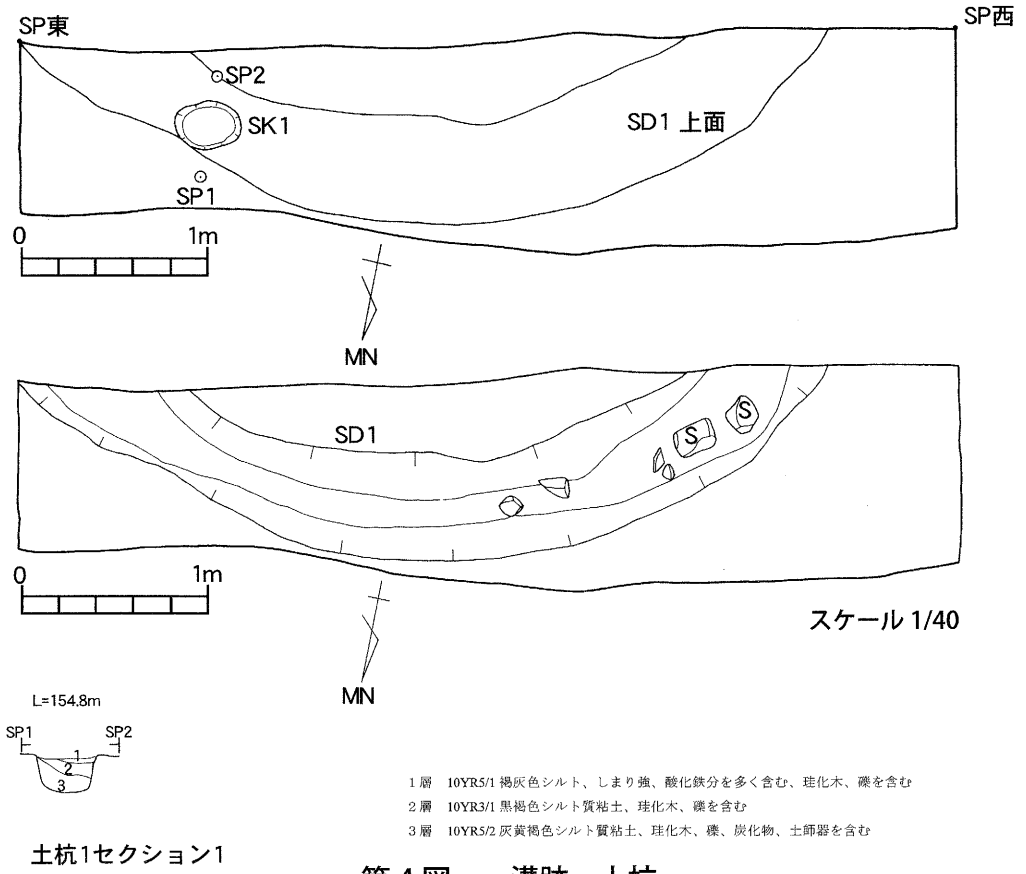
Y：-19500
Y：-19450
Y：-19400
Y：-19350
Y：-19300
X：-229500
X：-229600
X：-229650
T1
T2
T3(事前調査箇所)
T4
T5
T6
T7
0
50m

第２図　　調査区位地図



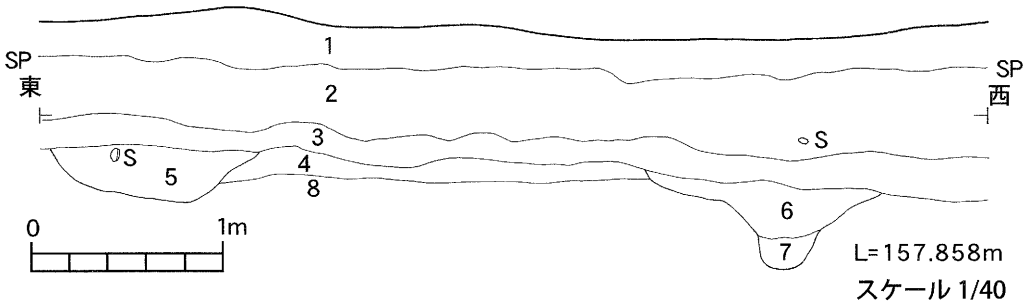
第３図　　T2～T4 配置図

には緑色の自然釉が観察される。全体の器形が不明のため詳細な年代は明確にできないが、概ね７世紀から８世紀初頭と考えられる。第７図２はフラスコ形長頸瓶の体部片と考えられる。ロクロ成形で、外面に回転ケズリ、内面にロクロナデがみとめられる。外面には濃い緑色の自然釉が観察される。湖西窯跡群産フラスコ形長頸瓶は６世紀末から７世紀代に生産されたものであるが、宮城県内では淡い自然釉がかかったものが多い。濃い緑色の自然釉は利府町菅谷道安寺横穴群出土の大型フラスコ形長頸瓶、提瓶（利府町教委1978）、大崎市坂本館山横穴墓群出土提瓶（三本木町教委1971）の、６世紀末から７世紀前葉に位置づけられるものに類例がある。全体の器形が不明のため詳細な年代は明確にできないが、本資料も６世紀末から７世紀前葉の可能性がある。第７図３は長頸瓶あるいはフラスコ



1 層　10YR5/1 褐灰色シルト、しまり強、酸化鉄分を多く含む、珪化木、礫を含む
2 層　10YR3/1 黒褐色シルト質粘土、珪化木、礫を含む
3 層　10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土、珪化木、礫、炭化物、土師器を含む

第 4 図　　溝跡、土杭



第 5 図　　T3 土層断面図

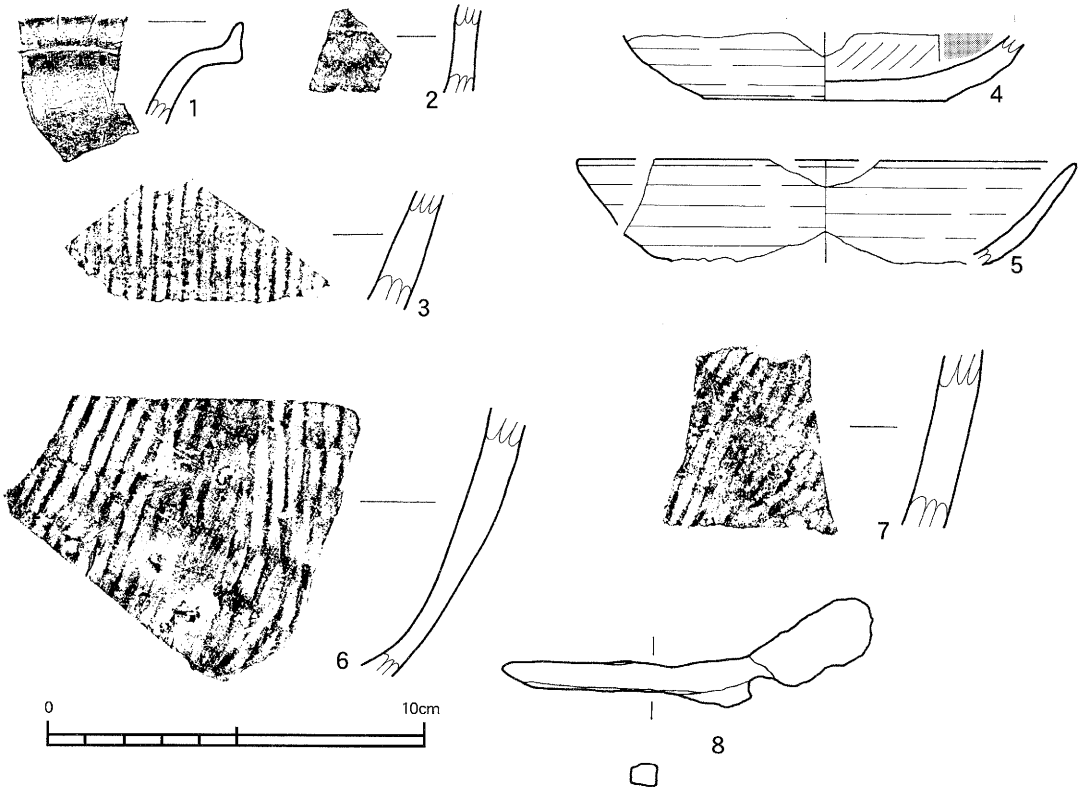
T 3
1 層　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
2 層　10YR5/2 灰黄褐色シルト、炭化物、橙、黄色粒子を多く含む、和釘、陶磁器を含む
3 層　10YR4/1 褐灰色シルト、炭化物、橙、黄色粒子を多く含む、2 層より若干黒みがかっている
4 層　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト、炭化物、橙、黄色粒子を多く含む、3 層より茶色味が強い
5 層　3 層と同じ
6 層　10YR3/1 黒褐色シルト、水分多い、炭化物、橙、黄色粒子を多く含む
7 層　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト、水分多い、炭化物、橙、黄色粒子を多く含む
8 層　10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭化物を若干含む、地山
5 ～ 7 層は周溝の堆積土、1 ～ 6 層には土師器、須恵器を含む

T 1
1 層　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質砂、層厚 20cm
2 層　10YR5/1 褐灰色粘土、24cm
3 層　10YR3/2 黒褐色シルト、亜角礫多い、5cm 以上

T 2
表土直下に大石あり、それ以上の掘削はできなかった。

T 4
1 層　にぶい黄橙色シルト、20cm
2 層　黒褐色土、下部では礫を多く含む、黄色粒子を含む、湧水、60cm 以上

形長頸瓶の頸部片である。ロクロ成形で、内外面にロクロナデがみとめられ、シボリ痕跡がある。体部との接合には、風船技法が用いられている。外面には緑色の自然釉が観察される。体部、口縁部が欠損することから詳細は不明であるが、頸部の長さから、概ね 7 世紀後半から 8 世紀初頭と考えられる。東北地方における静岡県湖西窯跡群産須恵器の主たる流通は、太平洋岸の宮城県北部地域が北限地域と考えられており（佐藤・大久保2007、佐藤敏幸2010）、本資料も出土例に位置づけられる。白石市の古墳時代後期から飛鳥時代の交流を考える上で貴重な資料である。



単位：cm

図版番号	器種	出土位置、層位	特徴	図版番号	器種	出土位置、層位	特徴
第6図1	須恵器長頸瓶	溝状遺構、6層	口縁部破片、内外面、ロクロナデ、大戸産	第6図5	須恵器坏	4層	内外面、ロクロナデ、推定口径13.2cm、残存高2.7cm
第6図2	須恵器長頸瓶	溝状遺構、6層	頸部破片、内外面、ロクロナデ、大戸産	第6図6	須恵器甕	2層	体部破片、外面は平行タタキ、赤黒色化している、内面はナデ
第6図3	須恵器甕	溝状遺構、6層	体部破片、外面は平行タタキ、内面はナデ	第6図7	須恵器甕	2層	体部破片、外面は平行タタキ、内面はナデ
第6図4	土師器坏	溝状遺構、6層	外面はロクロナデ、内面はヘラミガキ、黒色処理、推定底径6.4cm、残存高1 7cm	第6図8	和釘	2層層上部	長さ9.5cm、厚さ0.5～0.6cm、重量24.6g、曲がっている、断面は長方形を呈している

第６図　　出土遺物

番号	出土位置、層位	種別	特徴	備考
1	T3、表土	磁器	急須？近現代、内面に釉なし	
2	T3、表土	陶器	灰釉、鉢？時期不明	
3	T3、2層上部	磁器	産地不明、近現代、染付小坏	
4	T3、表土	陶器	瓶類、産地時期不明	
5	T3、表土	陶器	堤？なまこ釉の大鉢、19世紀中頃以降	写真図版2-6
6	T4、2層上部	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀	
7	表採	陶器	唐津？長石釉？鉄絵瓶類、焼成が若干あまい、17世紀前半	写真図版2-5

第１表　　出土陶磁器

第７図４～６、第６図１、２は明るい灰白色を呈し、胎土に砂粒を含みガラス質に焼成されている。このような胎土の須恵器は、福島県会津若松市大戸古窯跡（会津若松市教委1993）で生産された須恵器の胎土と一致する。大戸古窯跡産須恵器は福島県域をはじめ、宮城県内の城柵官衙遺跡を中心に出土している。本資料も、その一例とみられる。第７図４は頚部から体部の破片で、二段接合の痕跡が認められる。接合部外面には低いリング状凸帯が観察される。第６図１は長頚瓶の口縁部片で、口縁端部がつまみあげられて直立する。いずれも破片資料で詳細がわからないが、概ね、９世紀代に相当するものと考えられる。

第２節　市内の施釉陶器について

これまで白石市内で確認されている古代の施釉陶器は次のとおりである。既に白石市を含む宮城県内の施釉陶器について集成がなされている（柳澤ほか 1998）。

1　緑釉陶器、観音崎遺跡（中橋、清野 1978）、遺構外出土、報告書図版 9-13、推定底径 6.6cm、平安時代

2　灰釉陶器、観音崎遺跡（中橋、清野 1978）、３号住居跡、報告書第９図５、残存高 6cm、長頸瓶？現物不明。

3　灰釉陶器、家老内遺跡（森 1981）第 13 図３、遺構外、長さ 6.8cm

4　灰釉陶器、家老内遺跡（真山 1981）第 16 図５、井戸跡、長さ９ cm

5　緑釉陶器、明神脇遺跡（森 1981）143 頁本文中に記載、遺構外、長さ 2.3cm

6　奈良三彩陶枕、白石条里制跡推定地（日下ほか 2009）、遺構外、長さ 2.6cm

観音崎遺跡においてもう一点、灰釉陶器が報告されているが（報告書第９図４）、現在の知見からすると会津若松市大戸窯製品と判断できるものである。また、第１節では触れなかったが、祢宜内遺跡においても複数の大戸産須恵器が発掘されている（日下、櫻井 2009、2010）。

家老内遺跡報告書（森 1981）第２号住居跡出土の第６図 12 は古代の灰釉陶器とされているが、釉調に違和感があり、近世の所産である可能性がある。

第６章　まとめ

1　中ノ在家遺跡は白石市南部の越河平地区の丘陵上に立地している。

2　発掘調査によって９世紀代の溝状遺構１基、土坑１基、土師器、須恵器が発見された。近世～近代の陶磁器、和釘が出土した。

3　須恵器の中には福島県会津若松市大戸窯の長頸瓶が含まれていた。

引用参考文献

会津若松市教育委員会　1993　会津大戸窯　会津若松市文化財調査報告書第32集

片倉信光、後藤勝彦、中橋彰吾　1976　『白石市史』別巻　考古資料篇

菊池利雄 1994「第３章第７節　阿津賀志山防墨関連遺構」『阿津賀志山防墨保存管理計画報告書』国見町文化財調査報告書第９集

日下和寿、櫻井和人　2009　市内遺跡発掘調査報告書４　白石市文化財調査報告書第 33 集

日下和寿ほか　2009　白石条里制跡推定地ほか発掘調査報告書　白石市文化財調査報告書第 35 集

日下和寿、櫻井和人　2010　市内遺跡発掘調査報告書５　白石市文化財調査報告書第 38 集

佐藤敏幸・大久保弥生2007「宮城県の湖西産須恵器」『宮城考古学』第９号　宮城県考古学会　pp. 111-134

佐藤敏幸　2010　「東北地方における７～８世紀の東海産須恵器の流通」『北杜』辻秀人先生還暦記念論文集刊行会 pp.105-130

三本木町教育委員会　1971　三本木町坂本館山横穴古墳群発掘調査報告書　宮城県三本木町文化財調査報告書第１集

菅原祥夫、清野俊太朗、日下和寿　2009　八幡坂遺跡ほか発掘調査報告書　白石市文化財調査報告書第 34 集

清野俊太朗、遠藤智　1981　谷津川・江ノ下遺跡調査報告書　白石市文化財調査報告書第 23 集

高橋辰男　1978　「馬牛館と馬牛沼の伝説」『山麓文化』創刊号　pp.33-40

中橋彰吾、清野俊太朗　1978　観音崎遺跡調査報告書　白石市文化財調査報告書第 18 集

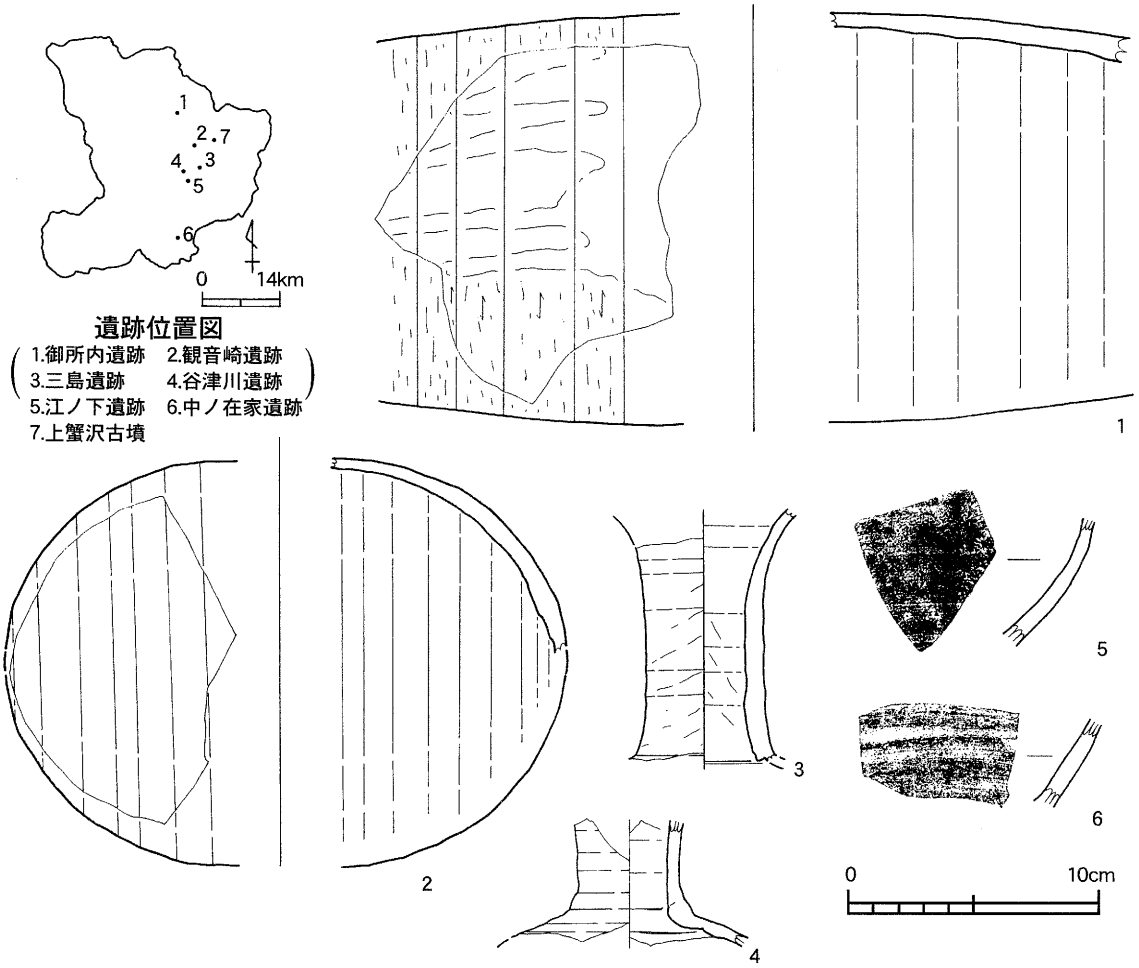
中橋彰吾　1987　「中世城館の規模と構造について」『白石市史』３の（３）特別史下の（２）　pp.543-648

真山悟　1981　家老内遺跡　東北自動車道遺跡調査報告Ｖ　宮城県文化財調査報告書第 81 集

森貢喜　1981　家老内遺跡、明神脇遺跡　仙南・仙塩・広域水道関係遺跡調査報告書Ｉ　宮城県文化財調査報告書第 79 集

柳澤和明ほか　1998　『日本の三彩と緑釉』五島美術館

利府町教育委員会　1978　菅谷道安寺横穴群　利府町文化財調査報告書　第２集

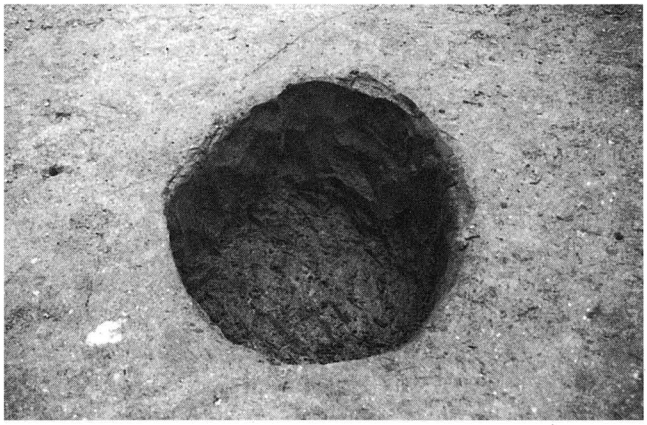


番号	器種	遺跡名	県遺跡番号	所在地	出土遺構	産地	時期	備考
1	須恵器横瓶？	江ノ下遺跡	02134	旭町ほか	表採	湖西	7世紀代	中橋資料
2	須恵器フラスコ長頸瓶	観音崎遺跡	02322	郡山字観音崎	BJ29	湖西	7世紀前～中葉？	中橋、清野1978
3	須恵器長頸瓶	上蟹沢古墳	02148	鷹巣飯塚上蟹沢	表土	湖西	7世紀後半～8世紀初め	市教委1981年発掘資料
4	須恵器長頸瓶	三島遺跡	02261	大鷹沢三沢、鷹巣	表採	大戸	9世紀	3段接合、中橋資料
5	須恵器長頸瓶？	谷津川遺跡	02133	東町及び旭町	AX53-5、4層	大戸	9世紀	清野、遠藤1981
6	須恵器長頸瓶？	御所内遺跡	02320	福岡深谷字御所内	表採	大戸	9世紀	中橋資料

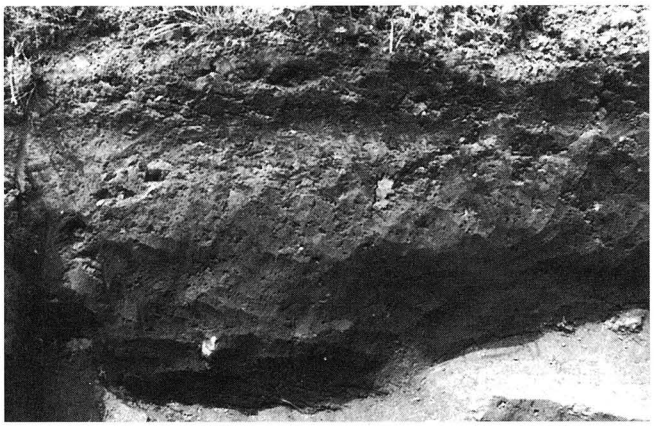
第７図　　関連遺跡、須恵器

遺跡遠景（南西から）

調査風景（T3、東から）

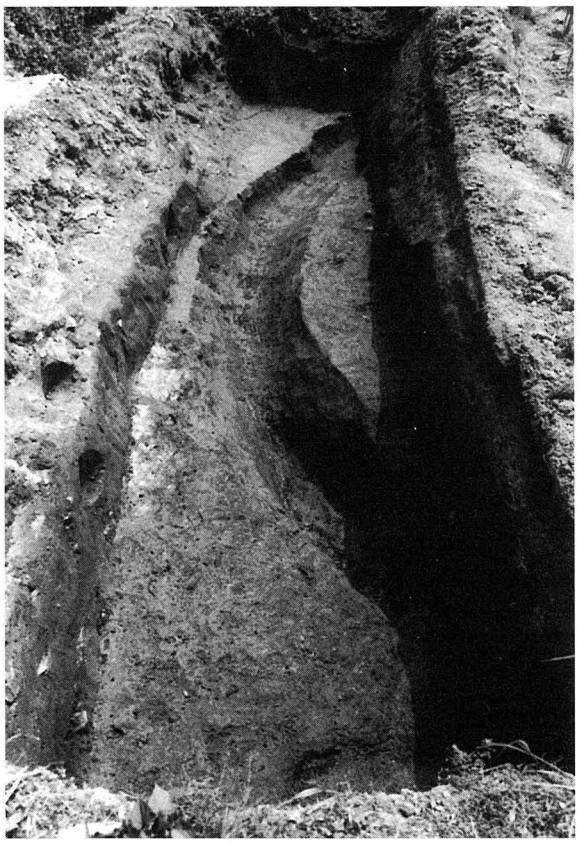


SKの完掘状況（西から）



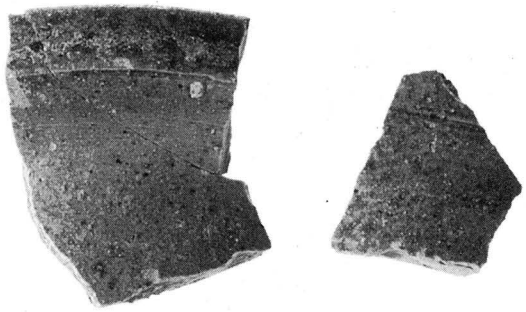
SD東側土層断面（北から）

▲ SDの推積土中の礫（西から）

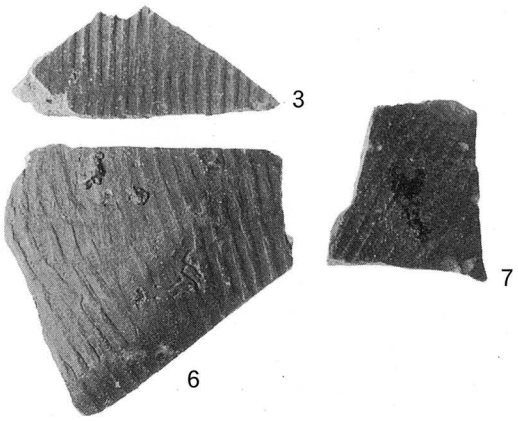


▲ SDの完掘状況（西から）

写真図版１　遺跡遠景 等

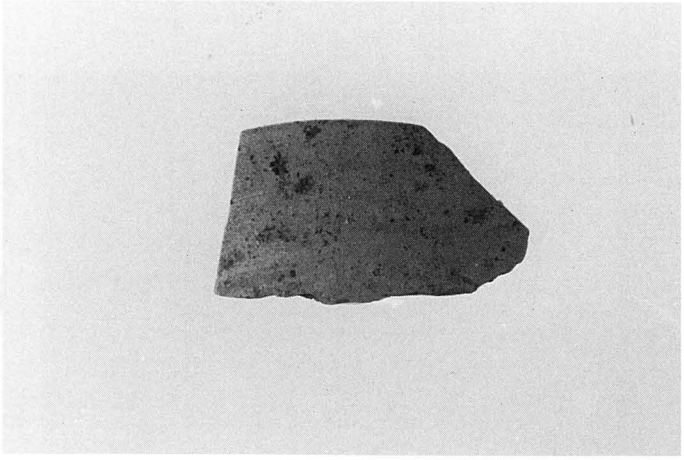


1　須恵器（第6図 1、2）

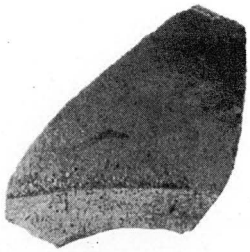


2　須恵器（第6図 3、6、7）

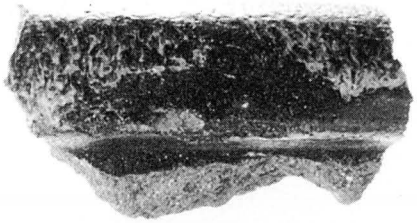
3　土師器（第6図 4）



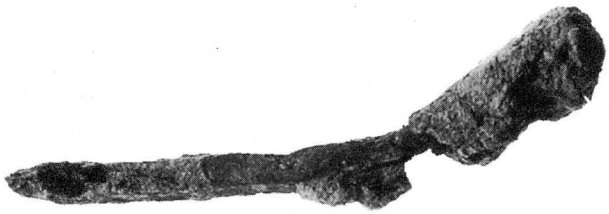
4　須恵器（第6図 5）



5　陶器（唐津？）



6　陶器（堤？）



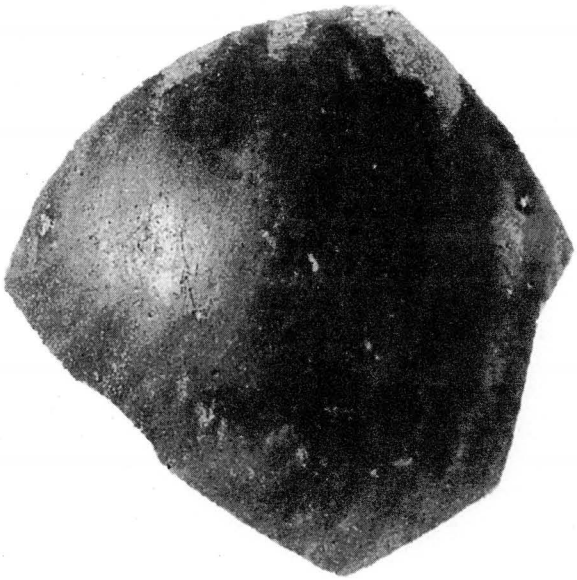
7　和釘（第６図８）

8　三島遺跡出土　長頸瓶（第７図４）

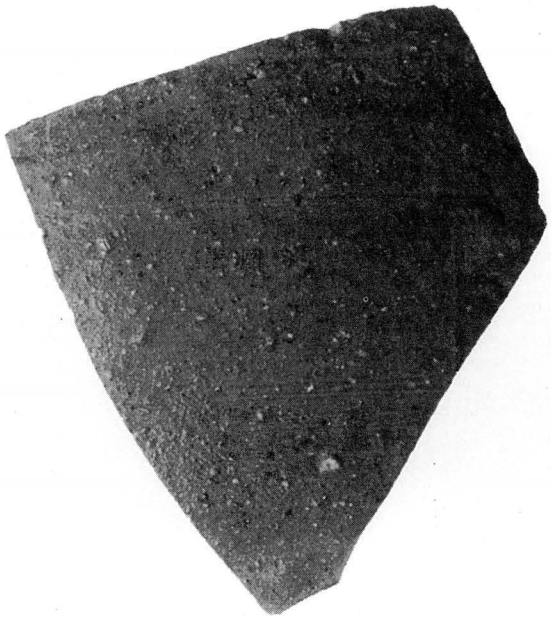
写真図版２　出土遺物 (1)

1　江ノ下遺跡出土 須恵器（第7図 1）

2　上蟹沢古墳出土 須恵器（第7図 3）



3　観音崎遺跡出土 須恵器（第7図 2）



4　谷津川遺跡出土 須恵器（第7図 5）

5　御所内遺跡出土須恵器（第7図 6）

写真図版 3　出土遺物 (2)

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかのざいけいせき
書名	中ノ在家遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	白石市文化財調査報告書
シリーズ番号	第39集
編著者名	日下和寿、佐藤敏幸
編集機関	白石市教育委員会
所在地	〒989-0206　宮城県白石市字寺屋敷前25番地6　TEL：0224(22)1343
発行年月日	西暦2011年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	発掘調査面積 ㎡	調査原因
なかのざいけいせき 中ノ在家遺跡	白石市越河平字中在家	04206	02417	37° 55′ 52″	140° 36′ 41″	20100601～20101001	344.00	市道改良

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
中ノ在家遺跡	散布地	平安	溝状遺構	土坑	土師器、須恵器	近世陶磁器、和釘	会津大戸産須恵器が出土した。

要約	9世紀代の溝状遺構が確認された。 白石市南部の越河地区において初めて、会津大戸産須恵器が出土した。

白石市文化財調査報告書　第３９集

中ノ在家遺跡

平成２３年３月２３日印刷

平成２３年３月２５日発行

編集・発行

白石市建設部

〒 989-0292　　宮城県白石市大手町 1-1

白石市教育委員会

〒 989-0206　宮城県白石市字寺屋敷前 25 番地 6

電話：0224-22-1343

印　刷　（株）不忘印刷所

〒 989-0273　宮城県白石市字中町 25

電話：0224-26-2070